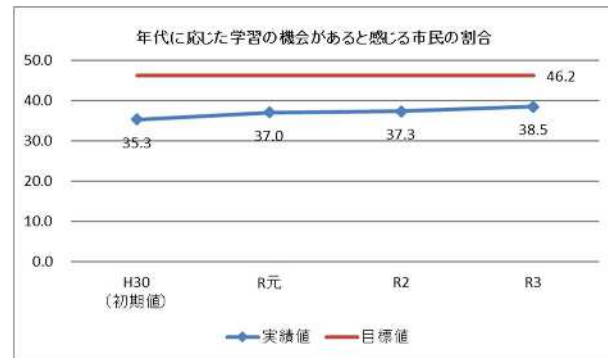
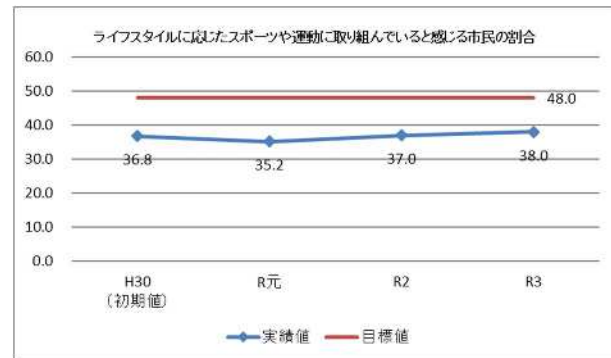
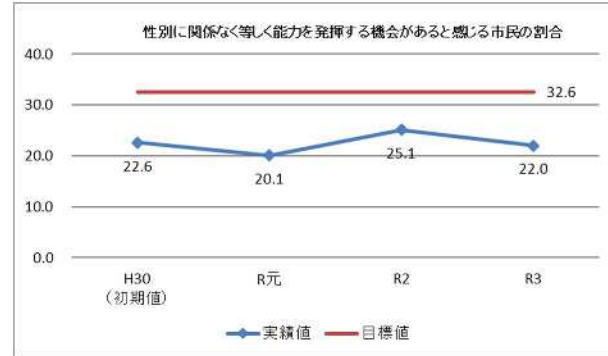
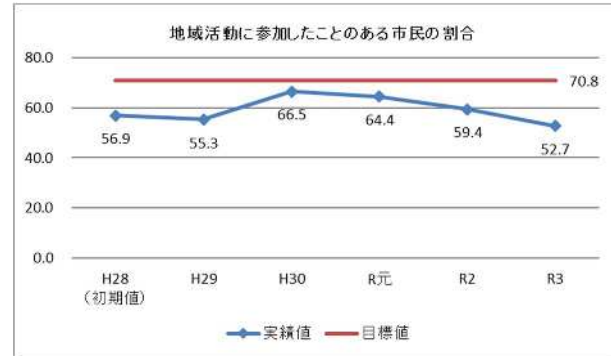
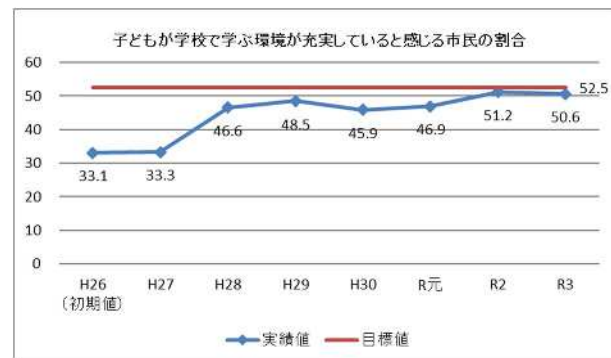


4. 未来を拓く人を育むまちづくり【教育部門】

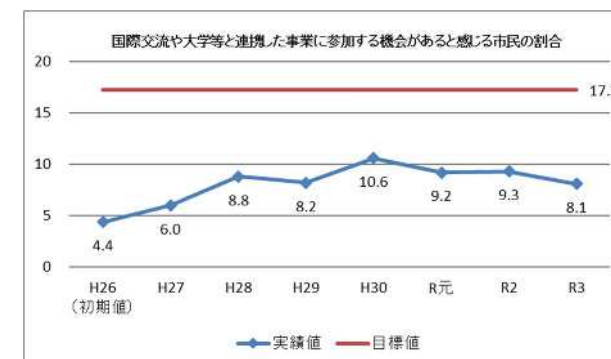
No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】	政策	施策 計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)	
6	市民が活動の機会に恵まれていること	地域活動に参加したことがある市民の割合	%	—	—	56.9	55.3	【—】 66.5	64.4	59.4	52.7	【70.8】	16	生涯学習の推進	I	生涯学習環境(学習機会や学習情報)に対して満足している市民の割合	%	17.5	【33.3】 26.4	24.1	24.5	25.9	【49.1】
		性別に関係なく等しく能力を発揮する機会があると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 22.6	20.1	25.1	22.0	【32.6】			I	青少年が健全に成長していると思う市民の割合	%	58.1	【67.3】 67.3	70.1	69.8	71.1	【76.5】
		ライフスタイルに応じたスポーツや運動に取り組んでいると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 36.8	35.2	37.0	38.0	【48.0】	17	人権教育及び人権啓発の推進	I	人権が尊重されていると感じる市民の割合	%	26.6	【41.6】 37.1	40.6	44.7	43.7	【56.6】
		年代に応じた学習の機会があると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 35.3	37.0	37.3	38.5	【46.2】											



No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】	政策	施策 計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)	
7	子どもが元気に学校へ通っていること	子どもが学校で学ぶ環境が充実していると感じる市民の割合	%	33.1	33.3	46.6	48.5	【42.8】 45.9	46.9	51.2	50.6	【52.5】	18	学校教育の充実	I	全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回る項目数	項目数	6	【全8】 5	2	0	2	【全5】
															I	学校を楽しんでいる児童・生徒の割合	%	92.7	【95.0】 93.7	93.0	94.0	93.7	【95.0】
															I	中学3年生における英検3級レベル相当の生徒の割合	%	—	【—】 36.6※	37.1	44.3	51.2	【50.0】
															II	学校を過ごしやすいと感じる児童・生徒の割合	%	64.3	【74.0】 78.5	80.3	78.7	80.0	【83.7】
															III	品目ベースの地産地消率(天草産食材の品目)	%	27.2	【28.5】 24.6	22.9	23.1	22.7	【30.0】



No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】	政策	施策 計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)	
8	国内外の交流や大学等との連携が盛んであること	国際交流や大学等と連携した事業に参加する機会があると感じる市民の割合	%	4.4	6.0	8.8	8.2	【10.8】 10.6	9.2	9.3	8.1	【17.2】	19	大学等との連携	I	大学等との連携事業の参加者で内容等に満足している市民の割合	%	55.1	【63.3】 90.6	92.4	84.3	91.1	【88.0】
															20	国際化の推進	I	外国人居住者の満足している割合	%	46.8	【56.4】 64.1	68.1	58.7
													II	姉妹都市交流等の参加者の満足している割合	%		75.8	【84.8】 90.5	100.0	80.0	97.8	【100.0】	



政策16 生涯学習の推進

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
6	市民が活動の機会に恵まれていること	地域活動に参加したことのある市民の割合	%	—	—	56.9	55.3	【—】 66.5	64.4	59.4	52.7	【70.8】
		性別に関係なく等しく能力を発揮する機会があると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 22.6	20.1	25.1	22.0	【32.6】
		ライフスタイルに応じたスポーツや運動に取り組んでいると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 36.8	35.2	37.0	38.0	【48.0】
		年代に応じた学習の機会があると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 35.3	37.0	37.3	38.5	【46.2】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	生涯学習環境(学習機会や学習情報)に対して満足している市民の割合	%	17.5	【33.3】 26.4	24.1	24.5	25.9	【49.1】
	青少年が健全に成長していると思う市民の割合	%	58.1	【67.3】 67.3	70.1	69.8	71.1	【76.5】

●環境指標への反映（分析）

公民館講座や生涯学習センター講座、講演会、図書館事業における読書イベント等の取組みにより、参加者のリピーターも増えており「年代に応じた学習の機会があると感じる市民の割合」の上昇につながっていると考えられる。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画 I 生涯学習の推進

- ・コロナ禍の影響により各種大会や講演会等については中止したのもあったが、公民館講座や生涯学習センター講座、家庭教育講座及び図書館事業による読書イベント等、多様な場で学習機会の提供を行った。
- ・様々な知恵や特技などを持つ人材を発掘し、子どもたちの授業支援のほか地域行事や郷土芸能など伝承する機会をつくるなど地域と学校が相互に連携・協働による地域学校協働活動の取り組みを推進することができた。

●課題

◆施策計画 I 生涯学習の推進

- ・市民のニーズに合わせた講座の企画や幅広い年齢層を対象とした学習機会の提供、学習情報の発信方法などを見直し、市民の学習環境を充実させる必要がある。
- ・将来を担う子どもたちの育成のため、地域学校協働活動を充実させていく必要がある。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画 I 生涯学習の推進

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・学習環境の充実を図るため、幅広い年齢層を対象とした講座や関心の高い講座等を企画し、市民に身近なコミュニティセンター等を利用した公民館講座や出前講座、生涯学習センター講座などを開催する。また、市民が参加しやすい講座や学習情報の提供を行う。
 - ・社会教育活動団体や地域の学習会など関係機関と連携し、幼保・小中高生の保護者を対象とした家庭教育の支援の充実を図る。
 - ・地域学校協働活動の継続的な事業体制を構築する。
 - ・複合施設こらすの中央図書館を生涯学習の拠点として、読書活動の推進を図る。

「やる事の改善（令和5年度以降）」

- ・施策計画の推進における事業の改善については、「やり方の改善」を継続して取り組んでいく。

政策17 人権教育及び人権啓発の推進

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
6	市民が活動の機会に恵まれていること	地域活動に参加したことのある市民の割合	%	—	—	56.9	55.3	【—】 66.5	64.4	59.4	52.7	【70.8】
		性別に関係なく等しく能力を発揮する機会があると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 22.6	20.1	25.1	22.0	【32.6】
		ライフスタイルに応じたスポーツや運動に取り組んでいると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 36.8	35.2	37.0	38.0	【48.0】
		年代に応じた学習の機会があると感じる市民の割合	%	—	—	—	—	【—】 35.3	37.0	37.3	38.5	【46.2】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	人権が尊重されていると感じる市民の割合	%	26.6	【41.6】 37.1	40.6	44.7	43.7	【56.6】

●環境指標への反映（分析）

市民が自らの課題として主体的に取り組めるよう講座のあり方を見直し、オンラインを活用した研修会や講座など、人権学習の機会の提供方法を見直したことにより「年代に応じた学習の機会があると感じる市民の割合」の上昇につながったと考えられる。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画I 人権教育及び人権啓発の推進

- ・児童館や保育園・幼稚園対象の就学前教育や小中学校及び保護者向けの学校教育、公民館講座や各種団体の学習会において、人権に関する講座を開催した。
- ・天草郡市人権教育推進連絡協議会及び天草人権擁護委員協議会等の関係団体と連携し、人権教育及び人権啓発を図った。

●課題

◆施策計画I 人権教育及び人権啓発の推進

- ・市民が自らの課題として主体的に取り組めるように、人権学習や相談体制の整備を進めていく必要がある。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画I 人権教育及び人権啓発の推進

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・市民の人権問題に対する興味・関心を高め、地域の実情に即した人権啓発を工夫し、取り組む。
 - ・年代に応じた学習の機会を提供するため、人権教育及び人権啓発のための研修や講座の実施、人権講座のパンフレットの設置や資料の提供等を行い市民の周知啓発を行う。

「やる事の改善（令和5年度以降）」

- ・施策計画の推進における事業の改善については、「やり方の改善」を継続して取り組んでいく。

政策18 学校教育の充実

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
7	子どもが元気に学校へ通っていること	子どもが学校で学ぶ環境が充実していると感じる市民の割合	%	33.1	33.3	46.6	48.5	【42.8】 45.9	46.9	51.2	50.6	【52.5】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回る項目数	項目数	6	【全8】 5	2	0	2	【全5】
	学校を楽しんでいる児童・生徒の割合	%	92.7	【95.0】 93.7	93.0	94.0	93.7	【95.0】
	中学3年生における英検3級レベル相当の生徒の割合	%	—	【—】 36.6※	37.1	44.3	51.2	【50.0】
II	学校を過ごしやすいと感じる児童・生徒の割合	%	64.3	【74.0】 78.5	80.3	78.7	80.0	【83.7】
III	品目ベースの地産地消率(天草産食材の品目)	%	27.2	【28.5】 24.6	22.9	23.1	22.7	【30.0】

●環境指標への反映（分析）

前年度より実績値が若干低下しているものの、新型コロナ対応策を含め、タブレット等の導入及び教職員向けのICT研修により、授業や教材研究におけるICT機器の活用が広がってきており、今後は上昇すると分析している。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画Ⅰ 次世代の担い手を育む

- ・児童生徒が意欲的に学習に取り組むことができるよう教育内容を充実させるための事業を実施。タブレット等の導入及び教職員向けのICT研修により、授業や教材研究におけるICT機器を活用する教員の能力向上に寄与することができた。
- ・児童生徒の誰もが能力に応じて十分な教育を受けることができる支援体制を整備。障がいのある子どもたちの他、特別な配慮を要する児童生徒の個々に応じた学習指導の支援のほか、きめ細やかな指導により子どもたちの学習能力の向上を図ることができた。
- ・児童生徒の英語のコミュニケーション能力が向上するための事業を実施。
令和3年度熊本県学力調査では、中1(54.5%)、中2(48.5%)の英語の正答率が、ともに県平均(中1 53.1% 中2 44.7%)を上回った。

◆施策計画Ⅱ 教育を支える環境づくりの推進

- ・学校施設の大規模改造事業では、トイレの洋式化・乾式化を行うトイレ改修工事を牛深東中学校及び倉岳小学校の合計2校で実施し完了した。

◆施策計画Ⅲ 学校給食の充実

- ・毎月19日を「食育の日」とし、天草産の特産物や郷土料理を取り入れた献立を各センターで実施した。
- ・老朽化した厨房機器の更新等を行った。
- ・本渡学校給食センター建設工事については、予定通り工事を進める事が出来た。

●課題

◆施策計画Ⅰ 次世代の担い手を育む

- ・学習指導要領において、ICT機器の活用が一層求められており、国のGIGAスクール構想による児童生徒一人1台タブレット端末配備と高速大容量の通信ネットワーク環境を整備しているが、教員の指導方法にも対応する必要があることから、学校間で授業活用の場面に格差が生じないように、授業づくりを基盤としたICT機器の操作・活用について、教職員研修等を実施する必要がある。
- ・知・徳・体をバランスよく成長させ、生きる力を身に付けさせるため、魅力ある授業づくりを進めるとともに、体験学習の充実、交流事業や地域との連携を進める必要がある。

◆施策計画Ⅱ 教育を支える環境づくりの推進

- ・学校施設の整備では、特別支援教室の増加や普通教室の不足が見込まれる学校があり、これらの改修整備が必要となる。また、本市の学校施設では老朽化が進んでいる学校があり、学校からの改修改造の要望も多いことから、優先順位を付けて計画的に整備することが求められている。

◆施策計画Ⅲ 学校給食の充実

- ・学校給食における天草産食材の流通ルートの確保と日常的に地元食材を使用できる体制づくりが必要である。
- ・各学校給食センター施設の厨房機器の老朽化対応が課題であり、特に牛深学校給食センターの修理費が高額となり、設備等の更新について早急に取り組む必要がある。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画Ⅰ 次世代の担い手を育む

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・ICT機器の利活用について、児童生徒の主体的学びの姿勢に活かせるよう、教員の活用能力を向上させるため、研修等を実施する。また、県主催の研修等にも積極的な参加を促す。
- ・ICT支援員を活用し、ICT機器を用いた授業の質の向上を目指す。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・天草市教育委員会指定研究推進校や天草市学校教育研究委員会と連携し、ICT機器の活用方法やICT教育と連動させた体験学習・交流事業の研究を進め、その成果を学校現場で実践する。

◆施策計画Ⅱ 教育を支える環境づくりの推進

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・学校からの改修改造要望について、効果・効率の向上が見込めるものから、営繕工事を計画的に実施する。
- ・小中学校施設のトイレ改修事業について、補助金等の財源を確保しながら事業を推進する。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・個別施設計画（詳細版）における第1期計画期間の工事費が平準となるよう計画の見直しを行う。
- ・教育ICT機器について計画的な更新を進める。

◆施策計画Ⅲ 学校給食の充実

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・各給食センターで使用する食材の把握、分析を行い、地元食材を使用できる体制づくりを進める。
- ・関係各課と連携し各種事業を活用した天草産の農畜水産物（天草大王、水産物（マダイ・ブリ等））の学校給食での使用と併せて出前講座等も行い地産地消の推進につなげる。
- ・第3次天草市学校給食基本計画策定のため、児童・生徒数の推移等を見据え、給食提供数に応じた厨房機器の更新について反映を行う。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・新本渡学校給食センター調理業務等について、民間委託の検討を行う。

政策19 大学等との連携

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
8	国内外の交流や大学等との連携が盛んであること	国際交流や大学等と連携した事業に参加する機会があると感じる市民の割合	%	4.4	6.0	8.8	8.2	【10.8】 10.6	9.2	9.3	8.1	【17.2】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	大学等との連携事業の参加者で内容等に満足している市民の割合	%	55.1	【63.3】 90.6	92.4	84.3	91.1	【88.0】

●環境指標への反映（分析）

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により各大学からの学生や関係者の受入ができず、市民や児童生徒との交流事業を中止した。代替策として講座をオンライン化したりしたが、当初計画どおりに事業を実施することが出来なかった。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画 I 大学等と連携した人材育成と専門的支援

- ・包括協定を締結している8つの大学等と連携事業を実施。特に、京都大学との連携では、一般及び高校生を対象とした「天草宝島起業塾」を開催し、天草の人材育成の強化に繋がっている。
- ・京都芸術大学との連携では、高等教育機関がない本市での学びの場として、令和2年度から現役の大学講師陣による「旅するキャンパス」を本格的に実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン中心の講座となっているため、参加者の確保が課題となっている。ただ、受講された方については、専門的な視点から意見を貰えるため満足度はあがっており、また、小中学生を対象としたワークショップについても、先端技術に触れるという普段体験できない機会が創出できたことで、満足度が上がったものと考えられる。
- ・熊本県立大学との連携事業では地域おこしスタートアップ事業など大学のノウハウを活用し、地域課題の解決に取り組んだ。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、韓国・忠清大学校との連携によるグローバル現場実習生の受入は中止となった。

●課題

◆施策計画 I 大学等と連携した人材育成と専門的支援

- ・大学等が持つ人的・知的資源をさらに積極的に活用し、地域の活性化や地域課題の解決を図るとともに、まちづくりの担い手となる人材の育成が求められる。
- ・コロナ禍の中での講座全体の目的、目指すべき方向性について、市民に分かりやすく伝え参加者の増加を図る必要がある。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画 I 大学等と連携した人材育成と専門的支援

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
 - ・新型コロナウイルス感染症等の影響を考慮し、今後もオンラインを活用した講座を取り入れ事業を継続するとともに、講座の目的・目標を明確に周知し、市民が参加したいと思う動機づけを行っていく。
 - ・市民が求める講座内容を把握する。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
 - ・これまでの取り組みを継続するとともに、天草市の活性化に向けて各課等が取り組む事業に、大学等の知見を反映できるように連携している大学の様々な情報を発信していく。

政策20 国際化の推進

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
8	国内外の交流や大学等との連携が盛んであること	国際交流や大学等と連携した事業に参加する機会があると感じる市民の割合	%	4.4	6.0	8.8	8.2	【10.8】 10.6	9.2	9.3	8.1	【17.2】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	外国人居住者の満足している割合	%	46.8	【56.4】 64.1	68.1	58.7	73.0	【66.0】
II	姉妹都市交流等の参加者の満足している割合	%	75.8	【84.8】 90.5	100.0	80.0	97.8	【100.0】

●環境指標への反映（分析）

- ・市民の交流する機会となる姉妹都市交流事業等で計画していた訪問・受入などの全ての事業を新型コロナウイルスの影響により実施することが出来ず、市民が国際交流に参加する機会を設けることができなかったため、指標の上昇につながらなかった。
- ・多文化共生事業においては、市政だよりやみつばちラジオ等を通じた天草市国際交流市民ボランティア募集や日本語教室に伴うサポーター募集など情報発信を行ったことで、ボランティア登録者や日本語教室への日本人サポーターが増加しているとともに市民に対しての周知啓発につながっている。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画Ⅰ 多様な文化を共有する社会の充実

- ・外国人居住者が暮らしやすい環境整備の取り組みとして以下の事業を実施（市民サポート団体への業務委託）
【内容】：外国人居住者のみならず市民ボランティアも含めた日本語教室の開催、窓口職員対象のやさしい日本語教室の開催、外国人総合相談窓口の開設、子ども学習会等の開催、日本語指導派遣・通訳業務など
- ・国際交流推進員による対象児童へのサポート、学校での多文化講話の実施
- ・居住外国人アンケートの実施

◆施策計画Ⅱ 国際化に対応した人づくり

- ・多文化の理解向上に取り組むため、R2.11から本市と協定を締結している韓国：忠清大 学校卒業生を国際交流推進員として雇用
※R1年度グローバル現場実習生として本市で約4ヶ月の実習経験あり
- ・国際交流推進員による小中学校・公民館等での国際理解講話の実施（10回）
- ・国際交流推進員による韓国語講座の実施（3回）
- ・広報紙、webの駅、Instagramなどでの情報発信（随時）
※新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、国外への移動が伴う事業（アメリカ：エンシニータス市教育交流事業、韓国：忠清大 学校ホームステイ事業）が全て実施することができなかった。

●課題

◆施策計画Ⅰ 多様な文化を共有する社会の充実

- ・相談窓口の認知度が上がってきたことで、相談内容も多岐に渡り、永住権や財産、雇用に係る権利義務関係など、専門的な知識が必要となる場合がある。
- ・市内企業での技能実習生の受け入れの増加に伴い、本渡地域以外の地域での外国人居住が増えてきている。

◆施策計画Ⅱ 国際化に対応した人づくり

- ・新型コロナウイルス感染防止対策の影響により国外への移動が難しい状況のため、国際交流推進員や国際交流市民ボランティアを活用した市内でできる新たな交流事業を検討していく必要がある。
- ・エンシニータス市や忠清大 学校との交流事業の再開に向けた協議を進めていく必要がある

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画Ⅰ 多様な文化を共有する社会の充実

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・外国人技能実習生雇用事業者等へのフォロー実施に向けた取り組みとしての調査を行う。
- ・外国人からの視点をふまえた多文化共生社会の実現に向けて、国際交流推進員を活用し、啓発活動を行う。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・外国人技能実習生雇用事業者等への調査結果を基に、サテライト日本語教室の実施を検討する。

◆施策計画Ⅱ 国際化に対応した人づくり

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・新たな交流事業として、国際交流推進員と国際交流市民ボランティアによる「交流カフェ」の開設し、市民参加型の事業として実施する。
- ・2年間交流事業が実施できていないエンシニータス市と中学生を対象にしたオンライン交流を実施する。
- ・2年間交流事業が実施できていない忠清大 学校と高校生を対象にしたオンライン交流を実施する。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・国際交流推進員の任期が終了したあとの、新たな国際化推進の事業を検討する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた事業の再開に向けて、防止対策と交流を両立できる方法を検討する